

令和3年度茨城県小中学校長研究協議会（鹿嶋市・小学校部会）報告
テーマ：感染症対策を踏まえた働き方改革

【協議の概要（要旨）】

今まで当たり前として取り組んできたことを見直し、ICT機器の利活用及び精選・削減・変更の視点から教育活動を検討した。

1 効果を上げた具体的取組

(1) ICT機器等の活用

- ・児童の毎朝の健康チェックを健康観察アプリを活用してスマホでの報告にしたり、保護者アンケートを端末のアンケート機能で集約したりすることにより、確認作業等の時間が大幅に減った。
- ・会議や終会等での伝達事項をパソコン上で共有したり、職員及び児童への週予定や月予定を端末を活用して送信することで用紙と時間の削減につながった。

(2) 行事等の実施方法の工夫

- ・1日開催の行事（運動会）を半日開催にしたり、休日に行っていた行事（地域公開）を平日実施にすることで、負担軽減につながっている。

(3) 日課表の工夫と職員の業務の見直し

- ・日課表を工夫（昼休みの短縮、簡単清掃の実施）し、児童の下校時刻を繰り上げることで、放課後の事務処理時間を生み出した。
- ・学期末の事務処理時間確保のために短縮日課期間を設定する。
- ・朝の立哨指導を地域の安全ボランティアに依頼する。

2 令和4年度以降の取組

(1) 新しい生活様式に基づく取組

ア PTA活動の見直しと学校運営協議会と連携した協働体制づくり

- ・教職員のPTA活動への負担軽減やPTAの活動内容の見直しを進める。
- ・ボランティアによる児童の見守り活動や校内の環境美化活動を推進する。

イ 行事の精選と実施方法の工夫・改善

(2) 通常の生活に戻った後、取り組むべき取組

ア 行事の精選と縮小の取組の継続

イ 市教育会事業の持ち方の検討

（例：市内陸上記録会を校内陸上記録会や通信陸上に代替する等）

3 今後の課題と対策

- 校務支援システムを導入して事務処理の効率化を図る。（行政との連携）
- 専科教員等の配置整備やそのための人材を確保していく。（行政との連携）
- 超過在校等時間縮減のための職員への個別指導や面談を進めていく。